

富良野市の部活動地域展開の進捗状況

○市内中学校・義務教育学校 4校

9月1日時点～市街地2校の拠点校・合同チームの検討

→2部活動の拠点校を指定(富良野東中学校～ソフトテニス・卓球)、今後も順次指定の予定

○地域クラブ・指導者登録制度

・認定地域クラブの要綱を作成中(年度内施行)

→市内の既存クラブ等への周知を今後行う予定

国の各種支援については次年度以降(まずは制度の確立)

・指導者登録制度

→認定地域クラブと並行して要綱作成中

○地域展開の今後

・R13 年度までに休日の地域展開(できるところから段階的に)

・最終的にはすべての部活動の地域展開(学校からの完全な切り離し)

・沿線との連携(一体的な取組としていくか協議中)

・推進計画については進捗を見ながら時点修正

「富良野市における今後のスポーツ振興」アンケート調査結果

1、調査の概要

スポーツ協会では、幼児期から高齢期までの市民が、スポーツ・健康づくりができる環境を整えるための「富良野市における今後のスポーツ振興」に関し検討するため、基礎資料を得るためにアンケート調査を実施しました。

2、調査の対象

調査は、スポーツ協会加盟団体 24 団体（令和 6 年度）及び富良野スポーツセンターを活動場所としているスポーツサークル 13 団体に対し実施しました。さらに、山部・東山・麓郷地区の振興会に同じアンケートを実施しました。

スポーツ協会加盟団体の回答数、回答率は

加盟団体 24 団体：回答 14 団体／回答率 58.3%

サークル 13 団体：回答 9 団体／回答率 69.2% となり、

全体では 37 団体：回答 23 団体／回答率 62.2% でした。

3、調査の期間

調査期間：令和 6 年 12 月から令和 7 年 1 月末まで

※山部・東山・麓郷地区：令和 8 年 8 月から 9 月まで

4、アンケート調査結果

Q 1：貴団体・サークルの構成員は、何チーム・何名ですか。なお、他町村で組織しているチームはカウントしないでください。

【回答】 13 団体

チーム登録	チーム数	小学生	中学生	高校生	一般	その他
	30	12	6	6	3	3
個人登録	登録人数	小学生	中学生	高校生	一般	その他
	555	245	119	23	91	77
個人登録	登録人数	未就学	小学生	中学生	高校生	一般
	454	16	85	44	6	303

個人登録人数中、加盟団体登録は 316 人、サークル人数は 138 人

チーム登録	団体名	チーム数	登録人数	加盟チーム（会員数）
	山部	2	32	・ゴルフ愛好会（15） ・フロアカーリング愛好会（17）
	東山	0	0	
	麓郷	5	29	・麓郷パークゴルフ（6） ・バトミントン（4） ・スキースポーツ少年団（2） ・中学校部活動（9） ・育成会（8）
個人登録	団体名	登録人数	内 訳	
	山部	0		
	東山	10	一般 10名	
	麓郷	0		

Q2：貴団体に自競技の指導員（日本スポーツ協会や競技団体認定の公認スポーツ指導員、公認審判員含む）は何名いますか。

【回答】 ・公認指導員～177人 ・公認審判員～44人
・その他 141人（スキー競技のセッター、検定員、計算員等）

○競技団体別指導員数（サークルは除く）

競技団体名	公認指導員	公認審判員	その他	競技団体名	公認指導員	公認審判員	その他
バレーボール	8	8		剣道	2	6	4
陸上	0	5		柔道	9	2	3
サッカー	1	1		空手道	0	1	3
ラグビーフットボール	3	4		弓道	2	2	
ソフトテニス	1	10	1	硬式野球	2		
テニス	2			スキー	142		130
少林寺拳法	5	5		合 計	177	44	141

麓郷：公認指導員 1名

Q3：スポーツ協会が管理している施設に限らず、日頃活動の場として利用しているスポーツ施設の満足度をお聞かせください。

※満足度：①大変満足 ②満足 ③普通 ④やや不満 ⑤不満

【回答】

施設ごとの満足度 ※数字は回答団体数（複数回答有）

施設名	大変満足	満足	普通	やや不満	不満	満足度の主な内具体的内容
富良野スポーツセンター	0	5	0	0	1	・テニスは専用利用しかできなく、個人利用はアリーナが空いていても使えない。次の利用者が来るまでや時間を決めて等、気軽に利用できる環境を確保してほしい ・アリーナ中央のネットは人力で上げ下げしているが、労力と時間を要す ・テニス2面で利用するとベースラインから後ろの壁までの距離が近すぎて、怪我や物品の破損の恐れが大きい。利用が可能となっている以上、何とか対策を講じてほしい ・冬期間はアリーナの暖房があまり入っていないく寒い ・観客席も広く特段不満はない ・管理がしっかりしている（物品、時間、温度等）
サブアリーナ	0	5	2	4	1	・冬期間の床が冷えていて寒い ・冬期間、更衣室入室時は暖房が入っていないく寒い ・夏、冷房設備がなく体調管理が難しい ・2階倉庫から1階へ備品を移動する時階段が危険 ・広い、鏡面、暖房
弓道場	1	0	0	0	0	
陸上競技場	0	0	0	0	1	・老朽化が進み、設備が使えないものや劣化しているものが増えている

						・トラックに雑草が生えやすく、月1回程度は小型トラクターでレーキでの整地が必要（除草作業だけでは、枯れた草がトラックに残り、凸凹で走り辛い） ・陸上競技場の個人利用の料金設定について、再考が必要（芦別市の個人利用は無料）
テニスコート	0	0	0	1	1	・水はけが悪く雨天後の使用が厳しく大会運営にも支障をきたしているため、オムニコートへの改修を希望 ・運営本部小屋も老朽化が激しく狭いため多くの人が入れない。運営本部小屋の改修とPCを使えるように電源の確保を希望 ・大会出場選手はパークゴルフ場側に集まることが多く、コートに入る際には本部小屋を通るため、フェンスに出入口を整備してほしい ・硬式コートのコンディションが非常に厳しい状況であり、少雨でスリップが起きたりする。また、ひび割れ等も多く、それでも理解して使用させてもらっている
河川テニスコート	0	0	0	0	1	・当初から朝露等水分が発生するとスリップして非常に危険な状況になる。大会等も開催は回避せざるを得ない
河川野球場	0	1	0	0	0	・利用しやすい
少年サッカー場	0	0	0	1	0	・水道がなく大会利用等の活用が狭くなっている
市民野球場	0	1	0	0	0	・使用回数が増えれば「大満足」（ブルーリッジ）
学校体育館	1	3	0	1	1	【東小学校】・夏涼しく、冬暖かい 【扇山小学校】・数年前から大雨時に雨漏りが続いている 【富良野小学校】・特に不満ない。次年度全面使用できるとなといい（陸上競技協会） 【富良野東中学校】・ネットのコート間、コートサイド、コートエンドが狭い（バレーボール協会）
学校テニスコート	0	1	0	0	0	【富良野西中学校】・曲がった支柱と新しいネットの予算をいただくと大変満足
高校グラウンド	0	0	1	0	0	【旧富良野高校】・ラグビーは安全面を考慮すると芝が理想
富良野スキー場	1	0	0	0	0	
XCコース	1	0	0	0	0	
旧子ども通園センター	0	1	0	0	0	・スポーツセンターより狭いが、無料で利用できたのでよかった
市役所リハーサル	0	1	0	0	0	・暖かい

室						
生涯学習センター	1	0	0	0	0	・利用しやすさと低料金
寿光園	0	1	0	0	0	・マイク（インカム）がある
人材開発センター	0	0	1	0	1	・雨漏り、寒さ、物品の破損 ・暖房のききが悪く、スイッチも自分たちで入れるため寒いまま終わる
中富良野スポーツセンター	0	1	0	0	0	
上富かみん	0	1	0	0	0	・マイク（インカム）がある
山部福祉センター（山部）	0	0	1	0	0	
樹海学校体育館（東山）	0	1	0	0	0	・特に問題なく利用できている ・トイレも使用できる
麓郷集落センター（麓郷）	0	0	1	0	0	

Q4：貴団体・サークルにおいて未就学児を対象としてスポーツ教室などの身体を動かす体験会・教室を開催していますか。

【回答】

開催している	開催している内容	開催していない	今後開催予定は
4団体	・教室 ・体験会 ・見学会	16団体	14団体が無

3団体すべてが ②開催していない→・今後も開催することは考えていない

Q5：未就学児期、小学年期、中学生期、高校生期の各期の子どもたちに対してスポーツができる環境をどう整えたいと思いますか。

【回答】

未就学児期	・未就学児の年齢や各個人に合わせた運動指導にはまだまだ行き届いていない。活動時間帯ももう少し早めて人員を配置できるのが理想（バレーボール） ・スポーツ体験の場の提供 ・親子で身体を動かせる機会、場所（公園なども）の創出 ・ゲーム的な要素も取り入れた参加しやすいスポーツイベント（体験会）の開催 ・『スポーツ縁日』のような多種目の体験イベントがよい。遊びの要素も含んでいることも重要。 ・家族が一緒になって楽しめることに、一緒に連れていければいいのでは。 ・習い事のようなこと以上に楽しくできるものを。 ・気軽にスポーツに親しめる場（やりたいときにやれる場所） ・スポーツとして理解できるのは、年中後半から年長であるので、3～4歳は鬼ごっこなど走り回れるようなスポーツ、5～6歳は少人数でできるスポーツなど分けて取り組むと良いのでは ・地域クラブ化（それぞれの団体がクラブハウスを持つ）
-------	---

	・スキーができる環境を。用具などの助成 ・親に対するアンケートの実施 ・遊びを通して楽しく体を動かせる機会を増やしてほしい（麓郷） ・親子で参加できるスポーツ体験教室などがあるとよい（麓郷）
小学生期	・一つのスポーツに特化しすぎず、専門種目の習い事を始めたとしても色々な動作を練習する ・少年団同士での交流や合同のスポーツ大会の開催。マルチスポーツクラブなどを週一回開催し、いろんな種目にトライする環境を作る ・様々なスポーツを体験する機会を用意することが必要。ウィンタースポーツやマイナースポーツ等問わずに、幅広く触れる機会を用意すること。 ・市内や周辺で教わるができるかどうか関係なく多くのスポーツを体験する場が必要 ・学校行事などと連携したスポーツイベント、研修会の開催 ・学校開放事業（体育館夜間利用）の土日拡充によるスポーツ環境の増加 ・学校施設の利活用（場所の確保） ・中学生、高校生との交流(こんな上級生になりたいな・・地域の多世代交流)。また、男女と区別しない大会の開催など ・小学生が進学後も安心してスポーツができる環境づくり →中学校〇〇競技体験会 など ・少年団など、体を動かすことのできる環境の提供 ・ハード面の整備は中々ハードルが高いと思う ・団体、個人に限らず、スポーツ設備の利用の無料化。 ・学校単位での活動が難しくなっている現状もあるので、広域でのチームがつくられることも必要では ・通学区域を越えて参加できる幅広い交流の場の提供 ・運動習慣の定着につながる活動・場所（体験、行事、屋外遊具） ・気軽にスポーツに親しめる場（少年団活動は家庭の負担が多いイメージがあり、敬遠する家庭も少なくない） ・親の送迎負担が少なくなる仕組み ・小中高一貫した一体的地域クラブ化（それぞれの団体がクラブハウスを持つ） ・現在様々な競技や学校や施設団体により多くのスポーツを体験しうる環境ではあるように思います。ただ、学校等では教員の指導が難しくなっていて、親の協力で実施されているケースが増えているかもしれません ・スキー用具の購入補助。スキー授業を週1回程度の内容に ・該当者に対するアンケートの実施 ・3～4年生からは、保護者が関わらなくても良い団体を増やしてほしい（東山） ・色々なスポーツを体験できる機会を増やしてほしい（麓郷） ・子どもがやってみたいスポーツを選べる環境があるとよい（麓郷）
中学生期	・部活動、習い事の掛け持ちOKという地域の風土の醸成 ・他の部活に入っている夏も陸上大会に出場可能だったり、オフシーズンに他の部活動に加入することをOKとする ・他の部活との交流や合同のスポーツ大会の開催 ・中学～高校生までの大会開催 ・マルチスポーツクラブなどを週一回開催し、色々な種目にトライする環境を作る ・複数加入できる部活動の推進。夏は野球、冬はスキーなど ・小学生、高校生との交流(下の子には教える機会。上級生と関わる機会) ・男女と区別しない大会の開催 ・選手の人数が減ってきており、単独ではチーム運営が難しくなっているため、富良野で1チームにする

	・地域にいるスポーツ競技経験者の方に指導に関わってもらえるようにする。適切な指導者の確保 ・時間や場所が固定して使える場所を確保する ・部活動以外でもそのスポーツを行うことができる場を作る、若しくは紹介することが必要 ・地域の大人で組織しているチームなどがあることを周知し、参加できることを伝える必要がある ・団体、個人に限らずスポーツ設備の利用の無料化 ・学校開放事業（体育館夜間利用）の土日拡充によるスポーツ環境の増加 ・講習会や体験会の実施 ・体験の場の提供 ・部活動で選択できる種目が少なすぎるため、選択肢を増やす。しかし＝部活動ではなく、地域での活動をメインにできたらよい ・中体連への参加については学校への負担も考えて、検討しなおす必要がある ・ルール、協力、目標を自覚できる活動、場所（競技スポーツ、ウィンタースポーツ、サイクリングなど） ・学校に頼らない持続可能なスポーツ活動ができる場の確保（競技団体の維持）。とはいえ、教職員の協力は不可欠（指導者の確保） ・学校施設の利活用（場所の確保） ・小中高一貫した一体的地域クラブ化（中体連の改革）（それぞれの団体がクラブハウスを持つ） ・部活やクラブ、外部団体等で意志により選択できる環境ではあると思います ・お金がかからない仕組み ・該当者に対するアンケートの実施 ・スキー用具の購入補助 ・指導者が、仕事等にかかわらず、関与できるようにする（東山） ・学校の部活だけでなく地域で専門的な指導を受けられる環境を整えて欲しい（麓郷） ・やりたい競技を続けられるようにしてほしい（麓郷）
高校生期	・小中学生に教える環境、社会人との関わりを増やす ・町内会単位、職場単位の大会など、地域の交流を増やす（例：東川町営のバレーボール大会） ・プロに関わる機会を増やす。〇〇教室や富良野市内でのプロ試合開催 ・高校に剣道部活復活を希望 ・部活動以外の場を周知することが重要。中学生以上に大人が組織している団体に入り、生涯スポーツをする環境があることを知らせていく ・団体、個人に限らず、スポーツ設備の利用の無料化。 ・学校開放事業（体育館夜間利用）の土日拡充によるスポーツ環境の増加。 ・体験の場の提供 ・能力を伸ばすための設備の充実 ・競技志向の強い選手は、市外に出ていく子が圧倒的に多い。であれば、富良野に残った子たちには、中学生同様に選択肢を増やしてあげられるような対策が必要である。やりたいけれど続けられる場がない種目が多い高校スポーツという感じがする ・ルール、協力、目標を自覚できる活動、場所（競技スポーツ、ウィンタースポーツ、サイクリングなど） ・学校に頼らない持続可能なスポーツ活動ができる場の確保（競技団体の維持）。とはいえ、教職員の協力は不可欠（指導者の確保） ・学校施設の利活用（場所の確保） ・思考が色々なので選択肢は十分提供されているように思います。ただ、競技人口や各団体の高齢化などで細かく提供しずらくなっているかもしれません

	・ 該当者に対するアンケートの実施 ・ スキー用具の購入補助 ・ 複数加入できる部活動の推進。夏は野球、冬はスキーなど ・ 色々なスポーツを選択できるようにすることも大事だが、富良野市として、特に支援に力を入れるスポーツを2、3競技作る事も大事では（東山） ・ 競技力を高めたい生徒が専門的な指導を受けられる環境を整えて欲しい（麓郷） ・ 周辺地域と連携して活動できる仕組みがあるとよい（麓郷）
--	--

Q6：貴団体に加盟しているスポーツ少年団に対し、貴団体ではどのような支援をしていますか。

【回答】

- ・ 助成金の交付、活動費の支援
- ・ 大会開催、大会運営支援（審判派遣、助成金）
- ・ 選手強化事業の開催
- ・ 公認指導者資格取得及び更新、公認審判員資格取得に対する支援
- ・ 指導者に対する団体登録料、スポーツ傷害保険料の一部助成
- ・ 団体主催大会に対し高校部活動生徒の参加をお願い
- ・ 活動に対する指導者派遣
- ・ 各種情報提供
- ・ 助成金 15,000 円を交付（麓郷）
- ・ 大会開催運営支援（麓郷）

Q7：少年団活動の運営に対し、スポーツ協会はどのような支援をすべきだと思いますか。

【回答】

- ・ 大会使用時の施設利用料の減免、大会開催時の支援
- ・ 陸上競技場利用料の減免
- ・ スポーツセンター等の体育施設の維持
- ・ 少年団活動の施設利用料の減免
- ・ 実技講習会の開催（指導者版）
- ・ 指導者資格等の取得支援
- ・ 練習器具などの更新または補助
- ・ 少年団活動に関わる現状、課題などを共有（スポーツ協会加盟全団体）し、課題解決に向けた支援（経済的支援、人的支援、運営支援、情報提供など）
- ・ 少年団活動、学生年代の施設利用料の無料化。
- ・ 夜間コート使用時の照明代の無料化
- ・ 通常の練習の際も安価で利用でき、専用利用の際も大幅な減免
- ・ 裾野を広げる活動周知
- ・ 広域的な活動を支える環境整備（駐車スペースの確保など）
- ・ 少年団などが宿泊や BBQ できるような柔軟な施設の運営
- ・ 大会の開催
- ・ 施設利用料の減免（山部）
- ・ 大会等への移動手段（バス・運転手）を全面支援（東山）

- ・専用競技場を作る（東山）
- ・大きな大会への行政の全面協力（東山）
- ・施設を利用しやすくするとともに利用料の軽減をしてほしい（麓郷）
- ・大会や遠征にかかる交通費など保護者の負担を減らす支援をしてほしい（麓郷）
- スクールバスを増やす等

Q 8：中学校部活動の地域移行に向けて、どのような運営形態が望ましいと思いますか。

【回答】（複数回答）

運営・組織形態	回答数	山部	東山	麓郷	具体的内容、補足
地域団体・人材活用型	6			○	・どうしても地域移行しなければならないなら、学校と地域が協力し合えるようなシステムを作してほしい
任意団体設立型	5				
競技団体連携型	0			○	
総合型地域スポーツクラブ型	5				・自治体単位で進めるなら ・最終的にはクラブチームとして活動できるとよい
広域連携取組型	4			○	・今後も加速する少子化には抗うことは難しい。沿線で連携してスポーツ振興を模索すべき ・現在の部活動は単独チームとして活動するのが難しくなっている
スポーツ協会運営型	3				
地域学校協働本部運営型	2				
その他	2				・学校、教育委員会、競技団体(少年団)・地域等で中学校の部活動の運営方法について協議を行い、運営形態の方向性を決定する。 ・市教育委員会と協議し学校で講演をしていきたい。
民間事業者運営型	2				・独自で動いた方が動きやすい。(走り出して体制を整え、後に行政にサポートしてもらうなど) また、民間の方が他企業からの支援も受けやすい
よくわからない	3	○	○		

Q 9：成人期（20 歳以上）、高齢期（65 歳以上）のスポーツ（健康維持含む）ができる環境をどう整えたらいいと思いますか。

【回答】

成人期 (20 歳以上)	・交流大会の幅を広げる多種目のスポーツ大会の開催。職場対抗、年毎に○○杯と持ち回り ・社会人クラブチームの立ち上げ、強化(大人になってもスポーツができる環境づくり) ・練習器具、施設備品の充実 ・気軽に参加できるスポーツイベントの開催 ・情報提供 ・初段取得教室
-----------------	--

	・スポーツセンター等で、地域内のスポーツ団体のメンバー募集をまとめて掲示 ・団体があることの周知。団体が無い場合は、体験教室やプレーできる環境を提供する（SNS の活用） ・就職、結婚、出産を機に競技を離れている傾向にあり、その方たちを掘り起こしていくため、月1回程度、所属がなくても活動できる場を提供し、その際に、チームを紹介して関わってもらう取り組みを実施 ・運動習慣定着のPR（健康づくりに向けた日常生活での工夫など） ・具体的なアイデアはないが、アスリート育成支援 ・利用しやすい安全な施設の提供（冷房設備、エレベータ設置） ・リレーマラソンなど職場単位や仲間と参加できるスポーツイベントの開催 ・ニーズに応えたプログラムの提供 ・本人の嗜好でしかないので、現状のままでいいのでは。意志があれば自分で動くのでは。 ・利用しやすい施設の提供（山部） ・大きな組織（市役所や JA 等）の職員が積極的にスポーツ行事に参加し、その参加をきっかけに友人や知人にも参加を呼びかける。（東山） ・大きな組織が大会を開く（東山） ・年齢や体力に合わせて気軽に参加できるスポーツ教室や初心者でも参加しやすい運動の機会を増やしてほしい。（麓郷） ・仕事や子育てをしている人も参加しやすい時間帯の開催を希望します。（麓郷）
高齡期 (65 歳以上)	・施設のユニバーサルデザイン化 ・ルールの優しい大会(バレーボール東川参考)。飲会までセット ・職場対抗「レジェンド大会」の開催(シニア)と言わない ・〇〇才大会（コートにいる人全員で〇〇才を超えるようチームを作り試合をする）。そういった事業通して競技にふれあい、中学校のチームが地域の方に関わる機会を増やし、指導にも関わってもらえるようにすすめていく（ただ、新たに何かをはじめるというのは強い意志とかなりの労力が必要となるため、なかなか難しいですね…） ・生涯スポーツといわれているような、パークゴルフや水泳などのスポーツ教室の開催 ・健康とスポーツを狙いとしたスポーツイベント、研修会、体験会等の開催 ・地域のサロンなどでのPRや体験会 ・剣道素振りなどの体験コーナ ・高齢者だけで組織し活動するスポーツ団体を創設、活動を支援する(高齢者となると既存団体への加入はハードルが高い様に思うので) ・定期的に簡単な運動ができる場所と時間 ・柔道では、旭川医大、北海道柔道連盟と連携して、『高齢者向け転び方教室』を富良野で開催できるように企画中。病院などに案内を置けたらと思う ・利用しやすい施設の提供 ・運動習慣定着のPR（健康づくりに向けた日常生活での工夫など） ・利用しやすい施設環境の提供 ・各種スポーツ教室、プログラムの開催 ・利用施設までの送迎 ・スポーツの後にお茶会（お菓子付）で会話の時間をつくる ・利用しやすい施設の提供、ニーズに応えたプログラムの提供 ・活用する人はいるので、決して現状が活用しづらいとは思わない フロアカーリングやミニテニス、パークゴルフ等対応しているように思う 継続が可能な物を提供していると思う ・移動手段を考える（東山） ・スポーツ大会等への案内（東山）

	・ケガ防止（東山） ・無理なく続けられるウォーキングや軽運動、体操などの教室を増やしてほしい。身近な場所に参加でき、健康づくりと交流の場にもなるような取り組みを希望します。（麓郷）
--	---

Q10：その他、富良野市のスポーツを振興するための意見・要望などがあれば記入願います。

【自由筆記回答】

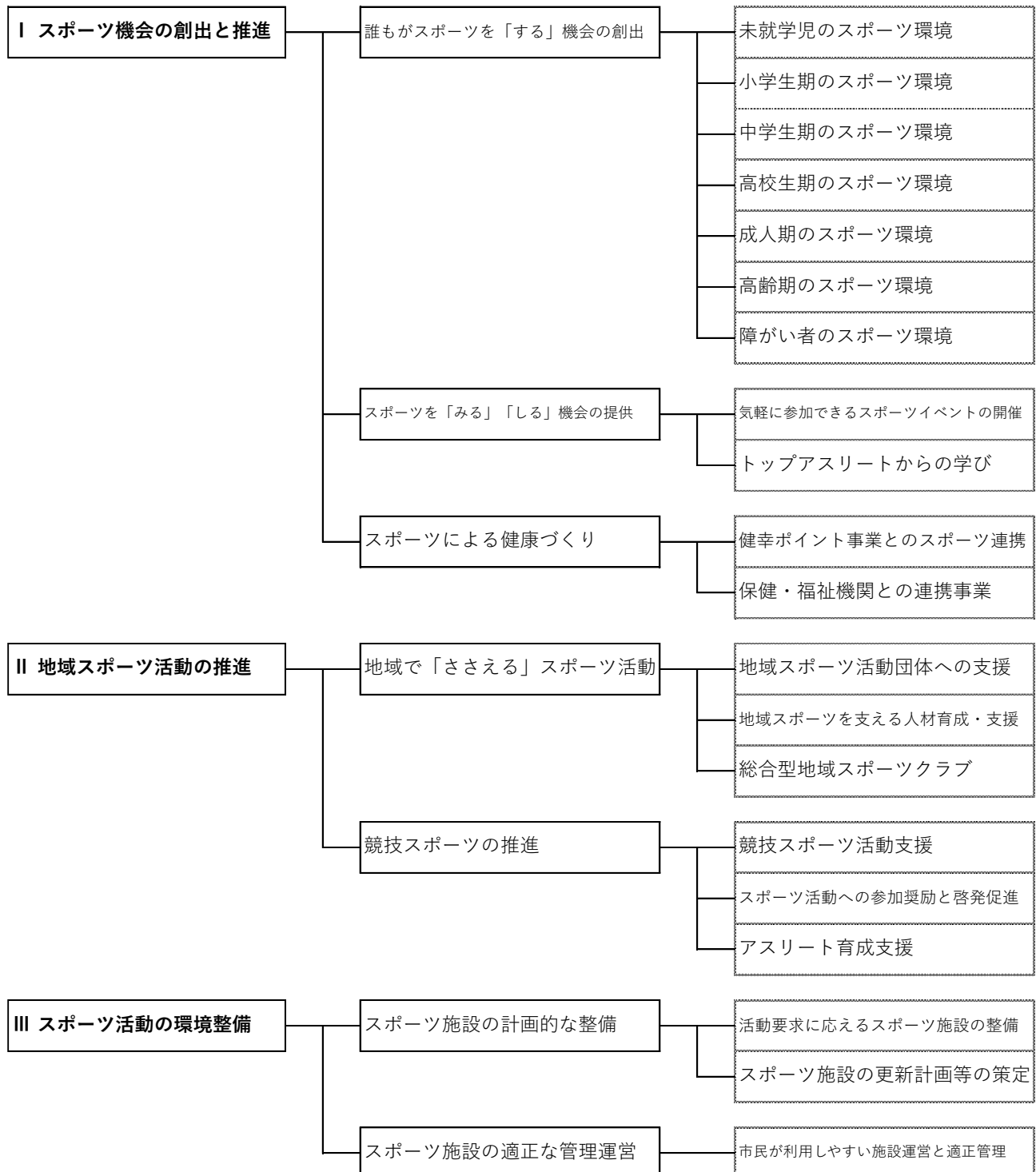
- ・南富良野のスキー場に富良野や帯広方面、芦別方面からも多くのファミリー層が足を運んでいる現状がありました。富良野スキー場は近いが高い、が、今年は市民還元の割引実施。混む時期が終わったら市民向けに安くするなどあったら。
南富良野のシーズン券は町外でも 15,000 円。安全面をとるとファミリー層にとって南富良野は好条件。お互い共存のために、富良野が混む時期は南富良野へ！などの施策もあり。
- ・廃校を利用できないか、動き出し。
- ・市とか町とか言ってもらえない！沿線で課題を共有、補い合う意識づくり
- ・スポーツセンター内に富良野出身の有名選手についてもっと大々的に掲示
(旭川大雪アリーナ(五輪選手掲示)や幕別スポーツセンター(五輪選手の等身大や所属クラブ、スケートの高木姉妹を大きく掲示))
- ・民営の体育館
- ・スポーツ施設以外に住んでいる所のコミュニティセンターの利用促進。高齢者は近い所が出かけやすい。この場合、リーダーになる人を市で確保するとか、養成してほしい。
- ・チャレンジスポーツ教室の種類を増やしてほしい。
- ・上富良野町では「健康づくり推進のまち」宣言をして、毎年、社教センター、かみんプールの 1 か月間無料券を発行している。かみんのプールと保健福祉課の連携も強く、町民の健康診断の結果からプールへの紹介や障害のある方のプール利用でも保健福祉課からの情報などサポートもあり、1つの団体だけではなく町の組織ぐるみの活動が垣間見れる。
- ・農業等、個人でのしごとをっていると人が減って地域でのやることが年々増えて、スポーツ等に参加しづらくなっている。行政で道路の草刈、鹿等の駆除などをもう少しやってもらえると自由な時間は増えると思う。（東山）
- ・子どもから高齢者まで、年齢や体力に関係なくスポーツを楽しめる環境を充実させてほしい。（麓郷）
- ・子どもたちが専門的な指導を受けられる機会を増やしてほしい。（麓郷）

計画体系図

基本目標

施策の柱

施策項目



1 誰もがスポーツを「する」機会の創出

Ⅰ 未就学児のスポーツ環境

未就学児（3～6 歳頃）は「プレゴールデンエイジ」と呼ばれ、神経系の発達が著しい時期であり、走る・跳ぶ・投げるなどの基礎的動作を身につける重要な段階です。この時期に多様な動きを経験することは、後の運動能力向上につながり、さまざまな動作を見てすぐに真似して習得できる「即座の習得」の基盤が形成されるとされています。

このため、特定のスポーツに特化するのではなく、遊びを通じて楽しく全身をバランスよく動かす環境づくりが推奨されています。

現在、市内では未就学児を対象としたスポーツ体験教室を実施している団体が 4 団体あり、地域や幼稚園等で自主的に活動する遊びのサークルも存在しています。また、年長から小学 6 年生までが 1 日で多様なスポーツに触れられる「スポーツ縁日」（実行委員会主催）といったイベントも開催されています。

今後も、特定非営利活動法人ふらのスポーツ協会等と連携し、未就学児が楽しく多種目を体験できるイベントの充実や、親子で身体を動かす機会の提供など、未就学児のスポーツ環境の整備に継続して取り組みます。

< 主な事業展開 >

- 遊びを通じて楽しみながら身体活動が行える取組の推進
- 保護者が運動の大切さを認識し、親子で一緒に体を動かすことを楽しめる機会の充実
- 親子で参加できるスポーツイベントやレクリエーションの実施
- SNSを活用した子育て団体等との連携による情報発信
-

Ⅱ 小学生期のスポーツ環境

小学生期（6～12 歳頃）、特に小学 3 年生から 6 年生（9～12 歳頃）は「ゴールデンエイジ」と呼ばれ、神経系の発達がほぼ完成に近づく時期です。この時期には動きの巧みさや技術を驚異的なスピードで習得できる「即座の習得」が可能であり、生涯に一度しか訪れない黄金期とされています。さまざまな運動を体験することで、将来の運動能力の基盤が形成されます。

この時期に重要なことは、多くの運動体験を通じて「運動の楽しさ」や「できた」という達成感を味わうことであり、特定のスポーツに偏らず、鬼ごっこ、縄跳び、鉄棒、

ボール遊びなど、全身を使った多様な動きを経験することが推奨されています。また、このような経験は、自己肯定感や運動への意欲の向上にもつながると言われています。

小学生期のスポーツ活動の中心はスポーツ少年団活動ですが、少子化の影響により、活動規模の縮小や種目によってはチーム編成が困難になるなどの課題も生じています。今後は、多様な種目を体験できる地域スポーツクラブの育成や、子どもが気軽にスポーツに親しむ機会の提供を推進します。

また、安全で質の高い指導を行うためには、スポーツ指導者（有資格者）の確保が重要であり、競技団体や地域における指導者育成の環境整備にも取り組んでいきます。

< 主な事業展開 >

- 出前講座、スポーツ教室、親子によるレクリエーション等の開催
- スポーツ少年団への支援
- 少年団やクラブ活動以外でスポーツに参加できる機会の提供
- 子どもが継続してスポーツに親しむ環境の構築
- スポーツ指導者資格取得等助成事業による指導者養成
-

Ⅲ 中学生期のスポーツ環境

中学生期（13～15 歳頃）は「ポストゴールデンエイジ」と呼ばれ、骨格や筋力が著しく発達し、パワーやスピードが向上する時期です。神経系の発達はほぼ完了しているため、新しい技術の習得よりも、既に身につけた技術の反復や精度向上、戦術・戦略理解、持久力の強化が効果的とされています。

この時期に重要なことは、基礎運動能力を土台としながら専門種目の技術向上を図ること、試合の映像などを活用し戦略的理解を深めること、そして心肺機能や筋力の発達に依りて精神面の育成にも取り組むなど、子どもの発達段階に応じた指導を行うことです。

中学生期のスポーツ活動は部活動が中心ですが、少子化や教員の負担増により、学校だけで活動を維持することが難しくなっています。このため、国では学校部活動を地域クラブや団体が担う「地域展開」の推進を進めており、専門的な資格を持つ指導者のもとで、子どもが継続的にスポーツや文化芸術活動に参加できる環境づくりが求められています。

本市においても、少子化によって学校単独でのチーム編成が困難になる種目も増えており、子どもが希望する競技が継続できるように、専門指導者の確保や地域ならではの多様な活動の場の確保が必要です。そのため、今後の部活動の地域展開に向けては、教育委員会において「富良野市部活動地域展開等推進計画」を策定し、令和10年度まで

に拠点校方式による休日の地域展開を進め、さらに令和１３年度までには平日の地域展開へと取組みが予定されています。

令和１３年度までの部活動地域展開に向けて、地域クラブ活動や総合型地域スポーツクラブの組織化、運営体制や費用負担のあり方など、多面的な課題整理を教育委員会と連携して進めます。

さらに、競技大会への参加を目指す「競技型スポーツ」だけでなく、運動を楽しむことを目的とした生涯スポーツ型の「ゆる部活」の導入など、選択肢の幅を広げることも重要です。スポーツだけでなく、文化芸術活動も地域が支える体制の構築が必要であり、学校、文化芸術団体、地域が一体となって取り組む体制づくりに向け、協議を進めていきます。

< 主な事業展開 >

- 学校教育活動及び運動部活動の地域展開によるスポーツの機会の充実
- スポーツ指導者資格取得等助成事業による指導者養成
-

Ⅳ 高校生期のスポーツ環境

高校生期は、中学生期とは異なり、練習量や活動時間が増え、インターハイなどの競技大会での結果を目指す「勝利志向」が強まる傾向があります。その一方で、生活リズムの乱れや栄養不足、オーバーワークによるスポーツ障害などのリスクが高まる時期でもあります。また近年では、ダンス、自宅での筋力トレーニング、eスポーツ、ジョギング、アウトドア活動など、部活動に限定されない「楽しみ志向・自分らしさを重視したスポーツ」も広がり、心身のバランスやセルフマネジメントがより重要となる時期です。

令和７年度から市内の高校が１校となりスポーツ系部活動が増加しました。統合により活動拠点の確保が課題の一つとなり、限られたスポーツ施設を、中学校部活動の地域展開による利用、高校生の活動、一般市民の利用が重なる形で調整しながら活用している状況にあります。

< 主な事業展開 >

- トップアスリートとの交流推進
- 部活動以外でスポーツに参加できる機会の提供
-

V 成人期のスポーツ環境

成人期（18 歳以上）は、仕事や家事、子育てなどにより時間的制約が大きくなり、運動・スポーツ活動から離れがちな時期です。運動不足は体力低下や生活習慣病のリスクを高めることから、健康維持・増進のためには、有酸素運動を中心とした継続的な運動習慣が重要だと言われています。

スポーツ庁や日本スポーツ協会では、誰もが生涯にわたり安全にスポーツへ参加できる環境づくりとして、「総合型地域スポーツクラブ」の普及促進、企業との連携、指導者の育成などを推進しています。また、競技者としての参加だけではなく、観戦、支援スタッフ、ボランティアなど、多様な関わり方が提示されており、成人期におけるスポーツとの多面的な関わり方が求められています。

本市においても、これらの考え方や国・関係団体が実施する支援の動向を踏まえ、総合型地域スポーツクラブの組織化や、働く世代が参加しやすいスポーツ機会の提供、企業との連携促進、指導者の育成などについて検討を進めていきます。

< 主な事業展開 >

- スポーツ教室利用促進に向けた無料体験教室の実施
- 健康面からの運動の重要性の啓発
- 健康管理アプリや運動動画配信などデジタル技術を利用したスポーツ活動の推進
- 個人でも手軽に継続的にスポーツに親しめるような環境づくり
- 市内のスポーツ団体やサークルの紹介

VI 高齢期のスポーツ環境

高齢期（65 歳以上）におけるスポーツとの関わりは、無理なく続けられるウォーキングや軽い筋力トレーニング、パークゴルフ、ボッチャ、モルック、ふまねっとなど、個々の体力や健康状態に合わせ、最初から高い目標を設定せず、日常生活の中で無理なく続けられる「少しの運動」を仲間と楽しみながら継続できることが重要です。活動場所への通いやすさ（立地・交通手段）、参加しやすい費用設定、地域コミュニティとのつながりは、継続的な参加を支える要素となります。これらの活動を通して、フレイル予防や生活習慣病予防につなげることが目標となります。

高齢期の運動は、個々の体力や健康状態に合わせ、最初から高い目標を設定せず、日常生活の中で無理なく続けられる「少しの運動」から始めることが重要です。疲労を残さない適度な運動量と、必要に応じた専門家のアドバイス、そしてバランスの良い食生活など、健康を総合的に支える取り組みが求められます。

今後も、疲労を残さない適度な運動量と、必要に応じた専門家のアドバイス、そしてバランスの良い食生活など健康を総合的に支え、高齢者が安心して、楽しみながら体力づくりに取り組めるよう、地域の活動資源や拠点を活かした環境整備、参加しやすい教室やサークルの充実、専門的支援の導入などについて検討を進めていきます。

< 主な事業展開 >

- 健康面からの運動の重要性の啓発
- ニュースポーツなどの生涯を通じて続けることのできるスポーツの普及
- 世代間交流イベントの開催等による高齢者世代の活性化
- スポーツを通じた健康増進、生きがいづくりやコミュニティづくりの促進
- 身近なコミュニティにおける軽スポーツ出前事業の実施

Ⅶ 障がい者のスポーツ環境

障がい者のスポーツ活動には、施設整備や用具の確保といったハード面、指導者・サポーターの育成、理解促進といったソフト面の両面において、さまざまな課題があります。一方で、東京パラリンピックやデフリンピックなどを通じて障がい者スポーツへの関心が全国的に高まりを見せており、障がいの有無に関わらずスポーツを楽しめる環境づくりを進めることは、共生社会の実現に向けても重要な取組です。

今後も、障がい者スポーツ大会の開催や、気軽に体験できるイベントの実施を支援し、障がい者スポーツへの理解と関心を高める啓発活動に取り組んでいきます。また、必要なサポートを受けながら安心して参加できる環境整備を進めることで、誰もがスポーツを通じて交流し、支え合う地域づくりを目指します。

< 主な事業展開 >

- 障がい者スポーツの普及・理解の促進に向けたイベントの推進
- 障がい者スポーツの大会開催による交流促進
- 障がい者スポーツの実施が可能な施設の環境整備や活動内容の情報提供
-

2 スポーツを「みる」「しる」機会の提供

I 気軽に参加できるスポーツイベントの開催

スポーツを始めるきっかけとして、まず「スポーツの楽しさを知る」ことが重要です。また、スポーツを習慣化するためには、家族や仲間と一緒に参加でき、多世代が交流できる環境づくりが効果的です。

ふらのスポーツ協会では、市内スポーツ団体と連携し、さまざまな種目に触れられる「チャレンジスポーツ体験教室」を開催しています。さらに、未就学児から小学生までを対象に、多様なスポーツを1日で体験できる「スポーツ縁日」（実行委員会主催）も実施されており、誰もが気軽に参加できるイベントとして定着しています。

富良野市スポーツ推進委員は、「いつでも・どこでも・誰でも」楽しめるニュースポーツ（ボッチャ・モルック等）の普及を通じ、健康づくりや地域コミュニティ形成を支援する取組を進めています。

今後も関係団体と連携し、気軽に参加できるスポーツイベントの充実や、軽スポーツに関する情報提供により、市民がスポーツに触れる機会を拡充していきます。

< 主な事業展開 >

- イベント開催等を通じた、家族や仲間など住民同士の交流促進
- 出前講座の実施等によるニュースポーツの普及やレクリエーション活動の促進
- だれもが気軽に参加できるスポーツイベントの開催
- 広報、市ホームページ、市公式SNS等を活用した情報発信
-

II トップアスリートからの学び

オリンピックやワールドカップで活躍するトップアスリートの経験から学ぶことは、スポーツへの理解を深め、継続への意欲を高める貴重な機会となります。本市では令和6年に「北海道オール・オリンピアンズ」と連携協定を締結し、オリンピックによる講演会や体験会への参加が可能となる環境を整えています。令和7年度からは、「富良野市健幸アンバサダー交流事業」によりオリンピックを招聘し、健康増進に関する講演会やスポーツ交流会を実施しています。

スポーツは身体的な成長だけでなく、精神面（メンタル）の育成にも大きく寄与します。トップアスリートがどのように体づくりやメンタルトレーニングを行っているかを直接聞き、動きを見たり体験することは、市民や競技者にとって大きな学びとなっています。

今後も、競技者だけでなく、指導者にとってもトップアスリートからの学びは指導の質の向上に役立ちます。本市では今後も、スポーツを正しく知り、楽しむための学びの機会を確保し、持続的なスポーツ活動につながる環境整備に努めていきます。

< 主な事業展開 >

- 健幸アンバサダーとの交流事業の継続実施
- トップアスリートによるスポーツ教室等の開催
-

3 スポーツによる健康づくり

I 健幸ポイント事業との連携

第6次富良野市総合計画や「富良野市健幸都市推進プラン」で掲げる「健幸ポイント事業」と連携し、スポーツ活動の促進を図ります。健幸ポイント事業は、市民の健康づくりへの参加を後押しする施策であり、スポーツ活動を継続する動機づけや行動変容を促す効果が期待されます。

市民がポイント取得を目的にウォーキングや運動イベントに参加することは、「達成感」を得られるだけでなく、健康への意識向上にもつながります。今後も事業との連携を強め、楽しみながら健康づくりに取り組める機会を提供していきます。

< 主な事業展開 >

- 健康ポイント事業の普及啓発と関係機関と連携した健康教室の開催
- だれでも気軽に楽しめる軽スポーツ出前講座の実施
-

II 保健・福祉機関との連携事業

スポーツは健康増進や生活習慣病予防に効果があることが知られていますが、その効果を市民の健康づくりに生かすためには、保健・福祉分野との連携が不可欠です。

保健師による健康相談事業と連携し、スポーツ活動の効果を「見える化」する取組を進めることで、成人病予防などへ活用していきます。また、福祉機関と協働し、「食べて」「動いて」「つながる」を柱としたフレイル予防事業との連携も図り、生活習慣改善や社会参加の促進に取り組みます。

こうした関係機関連携により、スポーツを通じた健康づくりを総合的に推進し、市民がいつまでも健幸に暮らせる環境づくりを目指します。

< 主な事業展開 >

- 保健センターにおける健康相談体制の整備
- 小・中学生、成人に対する健康教育の実施
- 健康体力づくり相談の実施
-

1 地域で「ささえる」スポーツ活動

Ⅰ 地域スポーツ活動団体への支援

地域に根ざしたスポーツ活動を支える運動サークルや地域スポーツ団体は、市民が身近な場所で気軽にスポーツに親しむための重要な役割を担っており、その活動を継続するためには、身近な活動場所の確保が不可欠です。

本市では、市民が住んでいる地域の中で安心してスポーツに取り組むことができる環境を確保するため、学校施設開放事業により市内の学校体育館を開放し、地域のスポーツ活動の拠点として活用しています。これにより、市民が住んでいる地域の中で安心してスポーツに取り組むことができる環境を確保しています。

また、市内のスポーツ団体の周知を進め、活動人口の獲得や団体の活性化につながる支援にも取り組んでいきます。

< 主な事業展開 >

- 市内小中学校の体育施設を活用した学校開放事業の実施
- スポーツ団体やサークルの紹介・周知
-

Ⅱ 地域スポーツを支える人材育成・支援

地域スポーツを支える指導者やスポーツ推進委員の高齢化が進む中、後継者の育成と確保は喫緊の課題です。

文部科学省は、令和 8 年度から令和 13 年度までを「改革実行期間」とし、原則すべての学校部活動の地域展開を目指す『部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的ガイドライン』を示しており、令和 13 年度までにスポーツ・文化の両部活動を地域が担う体制づくりを進めることを求めています。

スポーツ指導においては、スポーツインテグリティの観点から、JSPO（日本スポーツ協会）公認スポーツ指導者資格を持つ指導者の配置や、大会参加要件として公認指導者の帯同が求められるケースも増えています。これらに対応するため、研修会や実技講習の開催、公認指導者の育成支援が重要です。

本市では、資格取得には一定の時間と費用が必要となることから、令和 8 年度より資格取得に係る助成制度を確立し、地域を支えるスポーツ指導者の育成と確保に努めています。

< 主な事業展開 >

- スポーツ指導者資格取得等助成事業による指導者養成
- 若手指導者の発掘や指導者等の技術力向上のための各種研修会の実施
- スポーツ推進委員活動への支援と活動の周知
-

Ⅲ 総合型地域スポーツクラブの設立と運営支援

「総合型地域スポーツクラブ」は、子どもから高齢者まで多世代が参加できる多様なスポーツ機会を提供する地域の拠点として位置づけられており、生涯スポーツ社会の実現に不可欠な役割を担っています。

部活動の地域展開を進める上でも、総合型地域スポーツクラブは専門的指導が受けられる場、競技レベルに応じて参加できる場、レクリエーションとして楽しむ場など、幅広いニーズに対応できる柔軟な運営が可能です。

本市としても、地域の特性を生かしながら、総合型地域スポーツクラブの設立支援や、継続的かつ安定的に運営できる体制の構築を支援し、地域スポーツの中核となる機能を高めていきます。

< 主な事業展開 >

- クラブの活動内容やイベント情報の発信
- 登録・認証制度や各種事例の紹介等のクラブ設立に関する支援
-

2 競技スポーツの推進

I 競技スポーツ活動支援

市民や市内スポーツ団体が、それぞれの目標に応じた競技活動に取り組めるよう、競技団体の現状や市民ニーズについて、市と総括団体であるふらのスポーツ協会が情報を共有し、連携しながら効果的な支援を行っていきます。

また、スポーツインテグリティの確保や指導者育成を図るため、北海道オール・オリンピアンズとの連携により、健幸アンバサダー事業として講演会や体験会を実施し、競技者・指導者双方の資質向上に努めます。

< 主な事業展開 >

- ふらのスポーツ協会の活動支援
- スポーツ少年団の活動支援
- スポーツ活動バス事業（スポーツ団体の使用は？）
- 健康アンバサダー交流事業
- 各種スポーツ大会補助金
-

II スポーツ活動への参加奨励と啓発促進

人口減少や少子高齢化の影響により、市内のスポーツ少年団やスポーツ団体は活動規模の縮小が進んでいます。特に団体スポーツでは競技者の確保が課題となっており、スポーツを体験する場の提供が継続的な活動につながる重要な要素となります。

そのためにも、ふらのスポーツ協会が開催するスポーツ教室や、未就学児から小学生まで多様な種目を体験できる「スポーツ縁日」など、体験イベントの実施を継続的に支援し、スポーツの楽しさを伝える普及・啓発に努めます。

< 主な事業展開 >

- 各種スポーツ大会補助金
-

Ⅲ アスリート育成支援

競技力向上を目指す選手に対しては、より高いレベルの技術と触れ合う機会を提供することが重要です。本市では、全道・全国規模の大会に参加する市内選手や団体を対象に、アスリート育成事業を継続して実施し、新たな技術の習得や競技への理解深化、意欲向上につなげていきます。

また、スポーツ合宿の招致や市内での練習受け入れなど、地域資源を活かした取組を進めることで、トップアスリートと市民が交流できる場を創出し、競技者の技術向上にもつながり、さらに、アスリート育成支援を継続することで、競技者として成長した若者が将来的に指導者として地域スポーツに関わる仕組みづくりも検討し、持続的な競技スポーツ環境の構築を目指します。

< 主な事業展開 >

- アスリート育成派遣事業
- スポーツ合宿誘致検討

1 スポーツ施設の計画的な整備

I 活動要求に応えるスポーツ施設の整備

スポーツ施設は、市民の健康増進、世代を超えた交流、地域の活力向上を支える重要な社会基盤です。市民のスポーツ実施率の向上や多様化するスポーツニーズ、競技規則の変更などに対応し、誰もが安全かつ快適に利用できる施設環境の確保が求められています。

特に各種競技やレクリエーション活動に対応した、機能的で利便性の高い施設整備は、市民のスポーツ参加を促進し、継続的な活動につながる重要な要素です。また、人口減少・少子高齢化が進む中では、団体活動の存続や利用者の利便性確保を目的に、施設の集約化など効率的な施設配置も検討する必要があります。

さらに、市内の屋内・屋外スポーツ施設では老朽化が進んでおり、スポーツ施設の指定管理者であるふらのスポーツ協会が中心となって、利用者やスポーツ団体からの意見を取りまとめ富良野市に対し改善要望が出されています。本市の限られた財源の中では全ての要望に対応することは困難であり、安全性や利用状況を踏まえながら優先順位を整理して施設整備をする必要があります。

そのため、既存スポーツ施設の規模や利活用状況を把握し、ふらのスポーツ協会、地域スポーツ団体や利用者と協議しながら、活動要求に応える適切なスポーツ施設の整備を進めていきます。

< 主な事業展開 >

- スポーツ施設の計画的な改修整備
- 利用者アンケート等による施設改修箇所の把握
-

II スポーツ施設の更新計画等の策定

老朽化した施設は安全性の低下や利用満足度の低下を招く可能性があり、適切な維持管理に加え、中長期的視点に基づく計画的な更新・改修が不可欠です。また、エネルギー効率の向上、バリアフリー化、環境負荷軽減など、社会的要請に応じた機能改善も求められています。

各施設の現状を的確に把握し、必要性・安全性・利用度などを踏まえて優先度を整理した更新計画を策定し、スポーツ施設の長寿命化と機能改善を計画的に進め、市民が安心してスポーツに親しめる環境整備を推進していきます。

< 主な事業展開 >

- 各種関係計画に基づく施設の整備
- 市内スポーツ施設長寿命化計画の策定検討
-

2 スポーツ施設の適正な管理運営

I 市民が利用しやすい施設運営と適正管理

スポーツ施設の効果的な運営と市民サービスの向上を図るため、専門性を有する団体等を指定管理者制度の導入により、市民が利用しやすい施設運営と適正な管理に努めています。現指定管理者のふらのスポーツ協会は、地域のスポーツ団体との連携基盤を持ち、種目特性への理解や指導者ネットワーク、市民スポーツに関する知見を有していることから、利用者ニーズを的確に把握した管理運営を行なっています。

今後も、指定管理者制度による持続可能な施設運営を図るとともに、施設の安全確保および適切な維持管理、施設の長寿命化や運営コストの最適化を図って行きます。

さらに、利用料の減免制度の適切な運用により、青少年、高齢者、障がいのある方など、多様な市民が経済的負担を抑えてスポーツに親しむことができる環境を整えることで、スポーツ活動の機会均等が図られ、市民の健康増進やスポーツ参加への裾野の拡大も図って行きます。

< 主な事業展開 >

- 各種大会の実施やスポーツ教室の開催による効率的な施設活用
- 利用者アンケート等による改善点の把握
-